

# 第1回 能登地区神経筋難病ネットワーク 地域連携の会

副院長 横地 英博

7月16日（土）に、当院リハビリ棟において能登地区神経筋難病ネットワーク地域連携の会主催の第1回講演会を開きました。当日は梅雨の晴れ間で136名の方に参加いただきました。

能登地区神経筋難病ネットワーク地域連携の会は、能登中部の恵寿総合病院、公立能登総合病院、七尾病院の神経内科医が中心となり能登全域の神経筋難病患者の医療・介護の向上のためネットワークをつくる目的で結成されました。これは高齢化の進む能登地区において神経筋難病の増加がみられること、神経学会専門医が少ないこと、平成27年に難病新法が施行され指定難病が拡大されたことを受けたものです。

一般演題は2題あり、第1演題は上田竜也医療社会事業専門員から「在宅医療をサポートする」と題して、在宅療養において多方面からの情報の収集、家屋調査の実施、退院前カンファランスでの情報共有を心がけていること、七尾病院のここ2年間のレスパイト入院の実績の報告がありました。第2演題では森永章義神経内科医長から「在宅生活を続けることができた進行期パーキンソン病の一例」として、家屋改造、レスパイト入院の利用を交えて在宅生活を継続した症例の提示がありました。続く講演では金沢一恵言語聴覚士から「食べる」を支援する」という題で嚥下障害の基礎から臨床の実際までの詳しい説明があり、可能な限り経口摂取することの重要性を力説されました。

講演会終了後のアンケートを一部紹介します。「神経難病の患者でも在宅を続けられる4つの理由が印象的だった」、「VFの画像がみることでよかった」、「多くの人が参加しており、連携が進みそうでうれしく思いました」などです。また今後の話題として「神経難病患者の在宅での注意点」、「パーキンソン病の投薬について」などの提案をいただきました。

今後能登中部と北部で年1回ずつ開催を予定しており、忌憚のないご意見を宜しくお願いたします。

